

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 03-169137

(43)Date of publication of application : 22.07.1991

(51)Int.Cl. H04L 9/00
 G09C 1/00
 H04L 9/10
 H04L 9/12

(21)Application number : 01-310183 (71)Applicant : HOKURIKU NIPPON DENKI
 SOFTWARE KK
 (22)Date of filing : 28.11.1989 (72)Inventor : SUMIO YUKIYASU

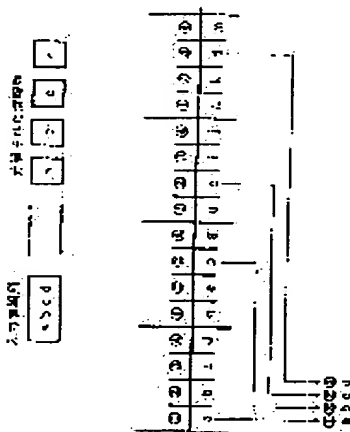
(54) CRYPTOGRAPHIC SYSTEM FOR ON-LINE SYSTEM

(57)Abstract:

PURPOSE: To enhance the security of cryptography against interception of a specific channel in a digital communication line by decomposing a transmission text over plural channels ciphered in time series, sending the result and combining the texts into a reception text after the reception.

CONSTITUTION: In the case of data communication through a digital communication line, since an input information string is communicated through channels in time division, the string is divided into plural information strings. That is, an input information string 'abcd' is divided into 4

information strings 'a', 'b', 'c', 'd'. In the Figure a prescribed period is divided into 4 channels and the divided information strings 'a', 'b', 'c', 'd' are sent through the channels 1, 1, 1, 1 over the 4 periods, and in the case of reception, the information strings of channel numbers 1, 3, 2, 3 are extracted to combine the input information string of 'abcd'. Since the channel number used for the communication is not specific to each period, the channel number is used as time series cryptographic information in the communication system. Thus, intercept of a text is prevented.



07583

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

平3-169137

⑬ Int. Cl.⁵

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)7月22日

H 04 L 9/00
G 09 C 1/00
H 04 L 9/10
9/12

7343-5B

6914-5K H 04 L 9/00

Z

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全7頁)

⑮ 発明の名称 オンラインシステムの暗号化方式

⑯ 特 願 平1-310183

⑰ 出 願 平1(1989)11月28日

⑱ 発 明 者 角 尾 幸 保 石川県石川郡鶴来町安養寺1番地 北陸日本電気ソフトウ
エア株式会社内

⑲ 出 願 人 北陸日本電気ソフトウ 石川県石川郡鶴来町安養寺1番地
エア株式会社

⑳ 代 理 人 弁理士 内 原 晋

明細書

発明の名称

オンラインシステムの暗号化方式

特許請求の範囲

通信回路を利用して電文を送受信するオンラインシステムの、送信側局である主局と受信側局である従局において、前記主局内の電文を入力してデジタル情報列に分解する電文分解手段と、

前記電文分解手段により引き渡された情報列を送信するためのチャネル選択をあらかじめ設定された時系列暗号化情報をもとに行う送信チャネル選択手段と、

前記従局内のデジタル通信回線を介して受信される電文の中から設定された時系列複号化情報をもとに受信チャネルをもとに受信チャネルを選択して情報列を取り出す受信チャネル選択手段と、

前記受信チャネル選択手段より引き取られるデジタル情報列を電文に合成し出力する電文合成手

段とを含むことを特徴とするオンラインシステムの暗号化方式。

発明の詳細な説明

〔産業上の利用分野〕

本発明は、通信回線を利用したオンラインシステムと送信側局と受信側局とのセキュリティ技術に関し、特に情報通信時の電文の暗号強度を保証したオンラインシステムの暗号化方式に関する。

〔従来の技術〕

今日の社会では、航空便の座席予約などのファクシミリ・サービスをはじめとして、ファクシミリ・サービスやオンライン・バンキングなどのデジタル通信を使用したサービスが数多く利用されている。これらデジタル通信では、データの通信精度向上や通信容量増大にともなって、個人や企業にとどまらず社会全体にとっても重要なデータを扱う場合が多くなっている。このため、通信データの盗聴に対応する技術の確立が必要となってきた。従来、デジタル通信回線を利用してデ

ータを通信する場合は、一本の回線を複数のチャネルに時分割して情報を伝達するが、特定のチャネルを一回線として利用するために、通信データが周期的に通信されるのが一般的であった。すなわち第2図で示す、“a b c d”という入力情報列を通信するために、“a”、“b”、“c”、“d”の情報列に分解し、第3図に示すように周期ごとに時分割された同一の番号をもつチャネルを利用して情報列を通信するのが一般的であった。

〔発明が解決しようとする課題〕

上述した従来のデジタル通信回線の利用方式では、一つのチャネルが一つの回線に対応しているため電文が周期的に通信されることになり、チャネルが特定された場合には電文が容易に盗聴されるという欠点があった。

〔課題を解決するための手段〕

本発明は、通信回線を利用して電文を送受信するオンラインシステムの、送信側局である主局と受信側局である従局において、前記主局内の電文

を入力してデジタル情報列に分解する電文分解手段と、前記電文分解手段より引き渡された情報列を送信するためのチャネル選択をあらかじめ設定された時系列暗号化情報をもとに行う送信チャネル選択手段と、前記従局内のデジタル通信回線を介して受信される電文の中からあらかじめ設定された時系列複号化情報をもとに受信チャネルを選択して情報列を取り出すチャネル選択手段と、前記受チャネル選択手段により引き渡されるデジタル情報列を電文に合成して出力する電文合成手段とを有している。

〔実施例〕

次に、本発明について図面を参照して説明する。

第1図は本発明の一実施例の概念図である。主局2は、電文1を取り込んで複数のデジタル情報列に分解する電文分解手段21と、あらかじめ設定されている時系列暗号化情報を記憶する時系列暗号化情報記憶手段23と、電文分解手段21に接続され時系列暗号化情報をもとに送信チャネル

を選択する送信チャネル選択手段22と、送信チャネル選択手段22とデジタル通信回線3に接続され送信チャネル選択手段22によって指示されたチャネルよりデジタル通信回線3を介して情報列を送信する送信手段24により構成される。

従局4はデジタル通信回線3に接続され主局2の情報列を受信する受信手段41と、あらかじめ設定されている時系列複号化情報を記憶する時系列複号化記憶手段43と、受信手段41に接続され時系列複号化情報をもとに受信チャネルを選択する受信チャネル選択手段42と、受信チャネル選択手段42に接続され複数のデジタル情報列から電文5を合成する電文合成手段44により構成される。

第2図、第3図、第4図はデジタル通信回線を使用した通信回線動作を説明する概念図であり、それぞれ、情報列の分割として合成動作、従来方式の通信動作、本実施例方式の通信動作の概念を示している。

第2図で示すように、デジタル通信回線により

データを通信する場合は、入力情報列は時分割されチャネルを通して通信するために、複数の情報列に分割される。第2図では、入力情報列“a b c d”を“a”、“b”、“c”、“d”の四つの情報列に分割している。第3図で示すように、従来の方式によるデジタル通信動作では、引定期内の複数のチャネルに時分割し、その一定周期ごとにあらわれるチャネルを通して分割された情報列を送信し、また受信は特定チャネルの分割された情報列を順次取り出して入力情報列を合成した。第3図では、一定周期を4チャネルに分割し、その4周期期間に渡ってそれぞれ①①①①のチャネルを通して“a”、“b”、“c”、“d”の分解された情報列を送信し、受信はチャネル番号①①①①の情報列を取り出し、“a b c d”の入力情報列を合成した例を示している。このようにして従来方式では、通信に使用するチャネル番号が周期ごとに特定しているので、チャネル番号を時系列非暗号化情報として通信方式といえる。

第4図で示すように、本実施例方式によるデジタル通信方式では、一定周期内の複数のチャンネルに時分割し、複数チャンネル番号にまたがったチャンネルを通して分割された情報列を送信し、また受信は送信に使用されたチャンネルの分割された情報列を順次取り出して入力情報を合成した。第4図では、一定周期を4チャンネルに分割し、その4周期間に渡ってそれぞれ①①①①のチャンネルを通して“a”、“b”、“c”、“d”の分割された情報列を送信し、受信はチャンネル番号①②③④の情報列を取り出し“a b c d”の入力情報列を合成した例を示している。このように本実施例方式では、通信に使用するチャンネル番号が周期ごとに特定しないので、チャンネル番号を時系列暗号化情報とした通信方式といえる。

次に第5図を参照して本実施例の動作を説明する。

デジタル通信回線3を介して送信手段24と受信手段41の同期をとるために、主局2から通信開始指示を送信し(処理2-1)、従局4が通信

が終了するまで繰り返す(処理4-4)。電文合成手段44は受信した全情報列より受信電文“a b c d”を合成する(処理4-5)。従局4は受信電文“a b c d”を取り出す(処理4-6)。主局2から通信終了指示を送信し(処理2-7)、従局4が通信終了指示を受了する(処理4-7)。

次に、本実施例の各手段の動作を説明する。

第6図は本実施例の電文分解手段の動作を示すフローチャートである。電文分解手段21は一定の大きさの電文を取り出し(処理21-1)、その電文をデジタル情報列に分解し(処理21-2)、そのデジタル情報列を送信チャンネル選択手段22に引渡す(処理21-3)。処理21-1～-3を繰り返す。

第7図は本実施例の送信チャンネル選択手段の動作を示すフローチャートである。送信チャンネル選択手段22は電文分解手段21から情報列引渡を待つ(処理22-1)。電文分解手段21からの情報列引渡があった時、時系列暗号化情報記憶手

開始指示を受了する(処理4-1)。主局は送信電文“a b c d”を取り出し(処理2-2)、電文分解手段21により電文を複数の情報列“a”に続く“b”、“c”、“d”に分解する(処理2-3)。送信チャンネル選択手段22は時系列暗号化情報記憶手段より取り出した、時系列暗号化情報をもとに分解された情報列に対応させて送信するチャンネルを選択する(処理2-4)。情報列は送信手段24を通し、複数チャンネルにまたがって暗号化されて従局へ送信される(処理2-5)。前記処理2-4、2-5を全情報列“a”に続く“b”、“c”、“d”を終了するまで繰り返す(処理2-6)。従局4は、受信チャンネル選択手段42が時系列暗号化情報記憶手段43より取り出した時系列暗号化情報をもとに送信チャンネル選択手段22と同期した受信チャンネルを選択する(処理4-2)。受信手段41は選択された受信チャンネルに対応させて分解された情報列を受信する(処理4-3)。前記処理4-2、4-3を前情報列“a”に続く“b”、“c”、“d”

段23より時系列暗号化情報を取り出し(処理22-2)、時系列暗号情報をもとに送信チャンネルを選択し、(処理22-3)、その選択チャンネルを送信手段24に指示し(処理24-4)、送信デジタル情報列を送信手段24に引き渡す(処理22-5)。処理22-2～-5を送信デジタル情報列が終了するまで繰り返す(処理22-6)。処理22-1～-6を繰り返す。

第8図は本実施例の送信手段の動作を示すフローチャートである。送信手段24は入力通信開始指示かどうかを判断し(処理24-2)、通信開始であれば通信開始を送信し(処理24-1)、そうでなければ入力通信終了指示かどうかを判断し(処理24-3)、通信終了指示であれば通信終了し(処理24-4)、そうでなければ入力通信チャンネル指示かどうかを判断し(処理24-5)、チャンネル支持であれば送信チャンネルを変更し(処理24-6)、そうでなければ情報列を送信する(処理24-7)。

第9図は本実施例の受信手段の動作を示すフロ

ーチャートである。受信手段41は入力通信開始指示かどうかを判断し(処理41-1)、通信開始であれば受信開始を受信チャネル選択手段42に指示し(処理41-2)、そうでなければ入力通信終了指示かどうかを判断し(処理41-3)、通信終了であれば受信終了を受信チャネル選択手段42に指示し(処理41-4)、そうでなければ受信チャネル選択手段42に受信情報を引き渡す(処理41-5)。

第10図は本実施例の受信チャネル選択手段を示すフローチャートである。受信チャネル選択手段42は受信手段41からの受信開始指示を待つ(処理42-1)。次に、受信手段41からの受信終了指示があれば処理を終了し、なければ引渡情報列が在ると判断する(処理42-2)。引渡情報列があった時、時系列複号化情報記憶手段43より時系列複号化情報を取り出し(処理42-3)、その時系列複号化情報をもとに受信チャネルを選択し(処理42-4)、その受信チャネルよりデジタル情報列を取り出し(処理42-

5)、その情報列を電文合成手段44に引き渡す(処理42-6)。処理42-2~42-6を受信終了指示があるまで繰り返す。

第11図は本実施例の電文合成手段の動作を示すフローチャートである。電文合成手段44は受信チャネル選択手段42から受け取り(処理44-1)、そのデジタル情報列を電文に合成し(処理44-2)、電文5を出力する(処理44-3)。

〔発明の効果〕

以上説明したように、本発明は時系列に暗号化された複数のチャネルにまたがって送信電文が分解されて送信され、受信後に受信電文に合成されるために、デジタル通信回路における特定チャネルの盗聴に対する暗号強度が高まる効果がある。

図面の簡単な説明

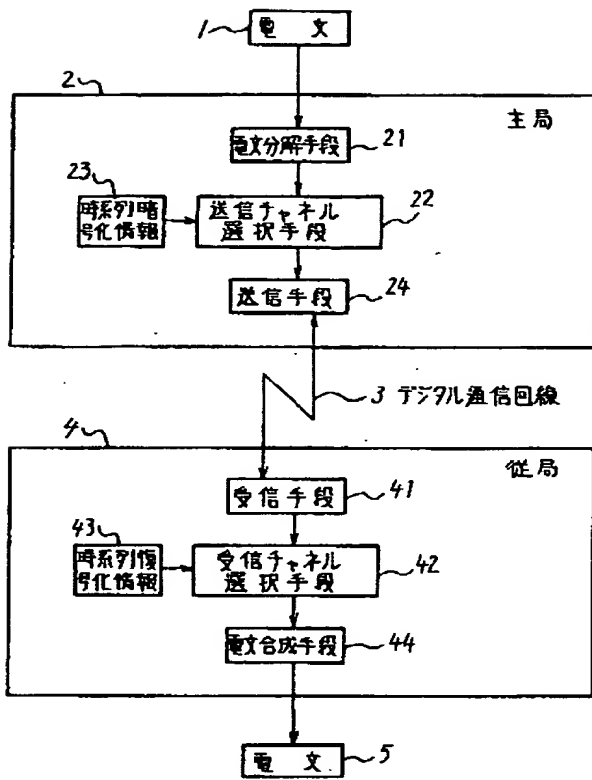
第1図は本発明の実施例を示すブロック図であり、第2図は情報列の分割と合成動作を説明する概念図であり、第3図は従来方式の通信動作を説

明する概念図であり、第4図は本実施例方式の通信動作を説明する概念図である。第5図は本発明のフローチャートであり、第6図は電文分解手段の動作を示すフローチャートであり、第7図は送信チャネル選択手段の動作を示すフローチャートであり、第8図は送信手段の動作を示すフローチャートであり、第9図は受信手段の動作を示すフローチャートであり、第10図は送信チャネル選択手段の動作を示すフローチャートであり、第11図は電文合成手段の動作を示すフローチャートである。

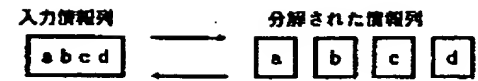
1……送信電文、2……送信側局である主局、21……電文をデジタル情報列に分解する電文分解手段、22……送信するためのチャネル選択を行う送信チャネル選択手段、23……あらかじめ設定されている時系列暗号化情報記憶手段、24……送信手段、3……デジタル通信回路、4……受信側局である従局、41……受信手段、42……受信するためのチャネル選択を行う受信チャネル選択手段、43……あらかじめ設定されている時

系列複号化情報記憶手段、44……デジタル情報列を電文に合成する電文合成手段、5……受信電文。

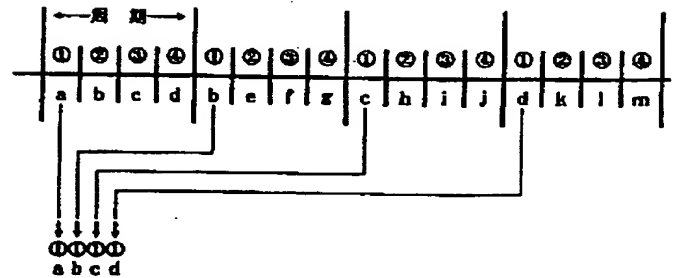
代理人 弁理士 内原 晋



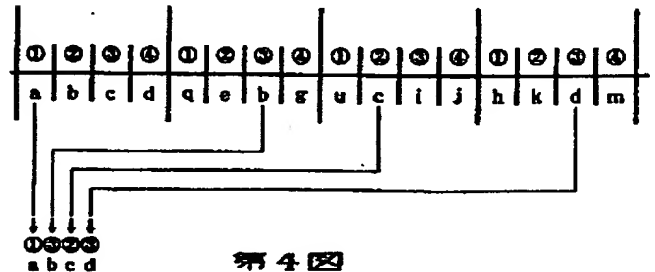
第 1 図



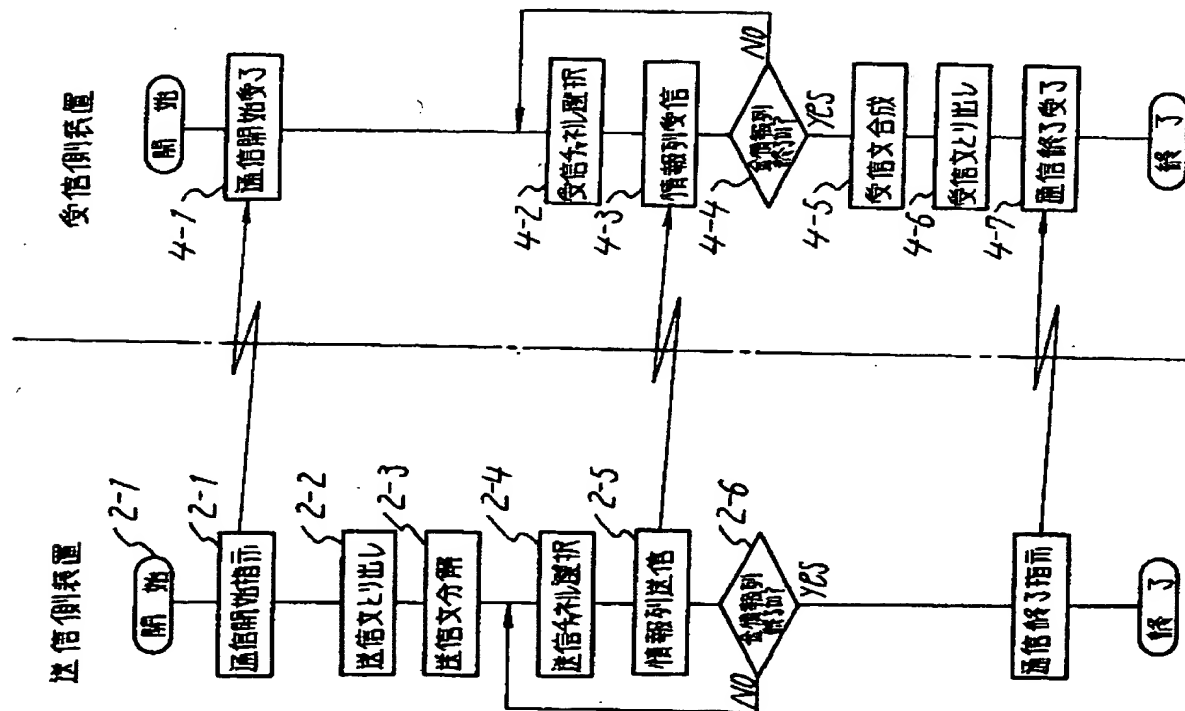
第 2 図



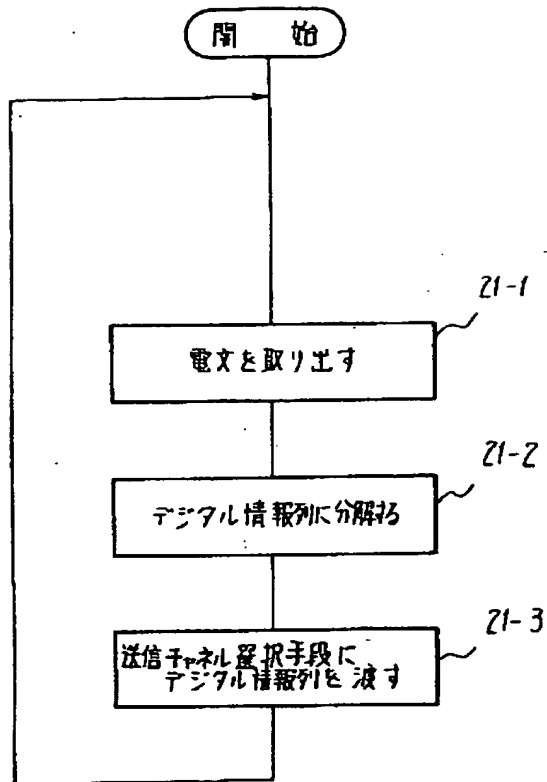
第 3 図



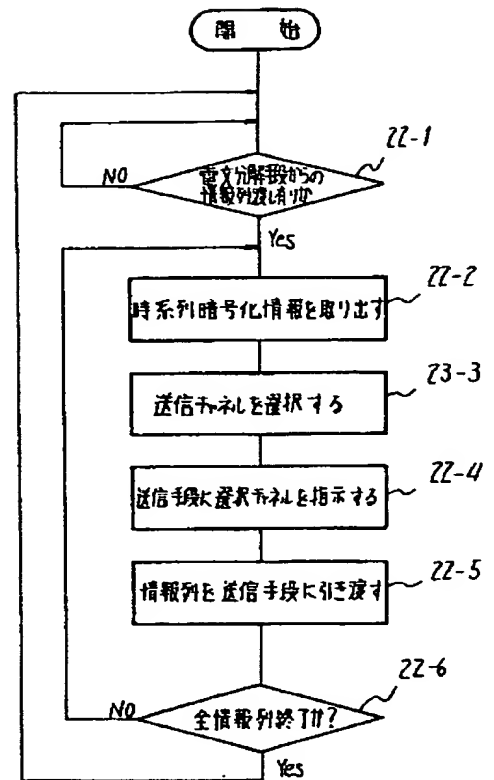
第 4 図



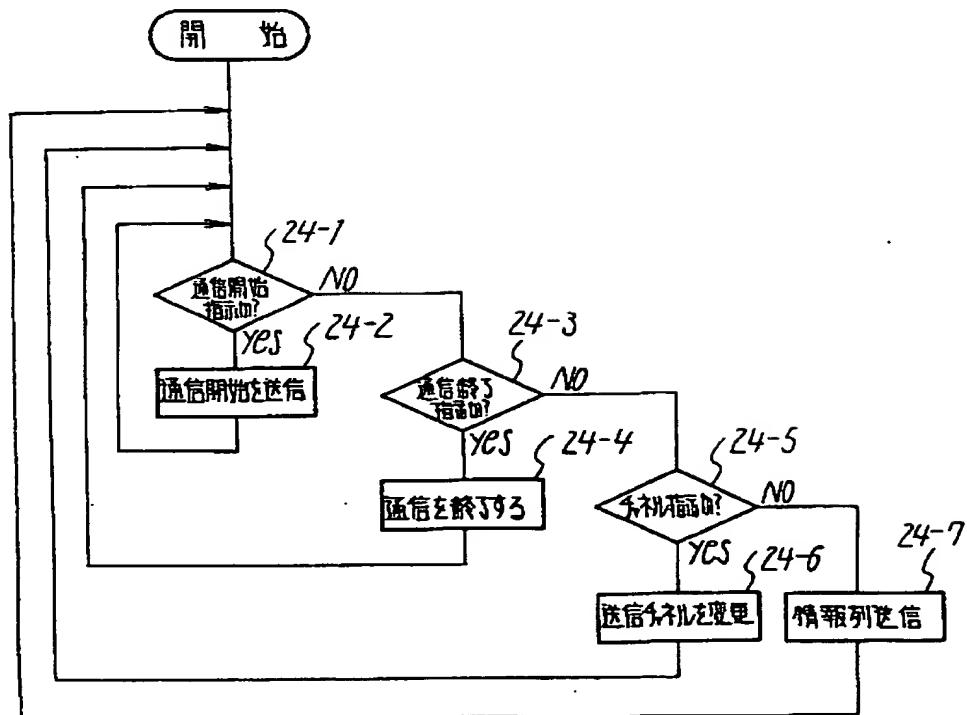
第 5 図



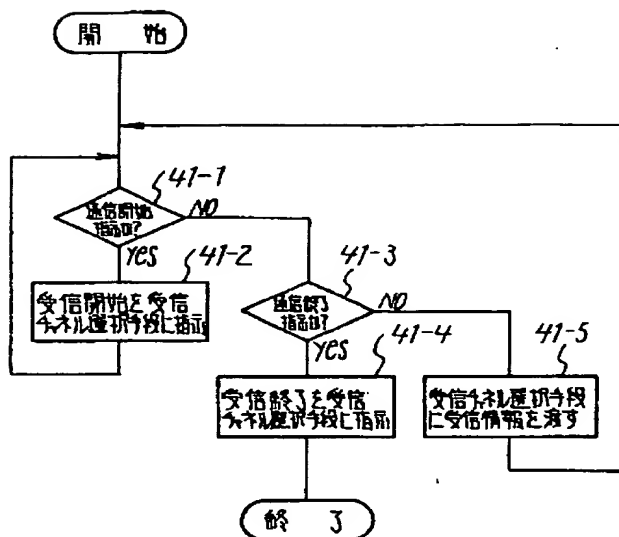
第 6 図



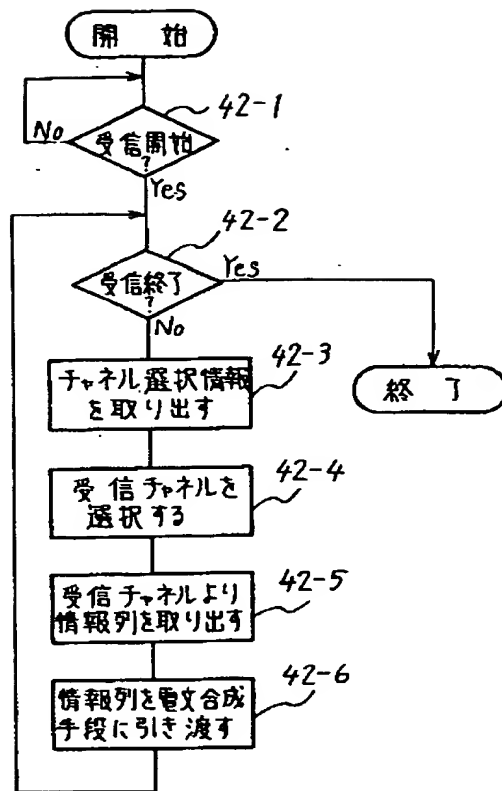
第 7 図



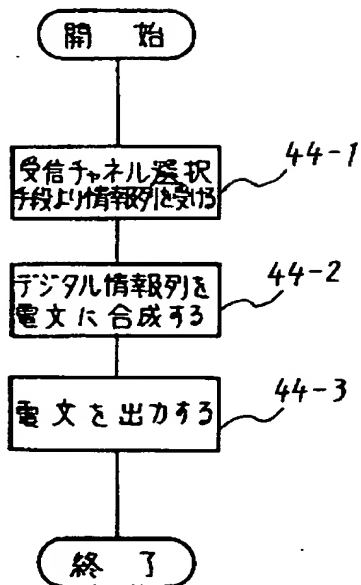
第 8 図



第 9 図



第 10 図



第 11 図